

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

学校名		武雄市立山内中学校		
1 前年度 評価結果の概要	<p>・昨年度は、授業時においてICT（タブレット端末）等を活用した分かりやすい授業を展開することで、生徒一人一人の学力向上を目指した実践を行ってきた。その結果、学校評価の生徒の評価項目の「ICT機器を活用した授業が自分の力につながっていると思いますか」については、ほぼ全校生徒が肯定的な回答で答えている。しかし、依然として基礎的・基本的な学力の定着不足が各教科で伺え、各教科の授業において日々の取り組みの見直しが必要である。特に、生徒の学力間格差がなくなるように基礎的・基本的な学習内容の習得には全教科をあげて取り組む必要があると考える。また、生成AI等のデジタルコンテンツや機器を授業の中で活用することで生徒の思考力の深まりや広がりにつなげる手立てを探る必要がある。</p> <p>・昨年同様に引き続き生徒の困り感や悩みは多岐にわたっている。発達支持的及び課題予防的な生徒指導に組み込み、いじめ防止・早期発見・早期対応、教育相談や特別支援教育の充実に組織的に取り組む必要がある。</p>			
2 学校教育目標	<p>夢と誇りをもち、仲間とともに高め合い 未来を拓く生徒の育成」</p> <p>目指す生徒像 ①「心豊かで、社会性のある生徒」 ②「自ら学び、共に高め合う生徒」 ③「心身ともに明るく健康な生徒」</p>			
3 本年度の重点目標	①生徒の教育活動全般を通じた立腰教育の充実および生徒会活動「AJISAI運動」の活性化実践			
4 重点取組内容・成果指標				
(1)共通評価項目				
	重点取組			主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「授業が分かりやすい」と肯定的に回答する生徒の割合80%以上、「わかりやすい授業展開に努めている」と肯定的に回答する保護者の割合80%以上 ○「家庭学習への取り組み方がよくなった」と肯定的に回答する生徒の割合80%以上、保護者80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3を意識した授業実践及び電子黒板やタブレット等の利活用推進 ・家庭学習の習慣づけ及び内容充実を目的とした「学習タイム」の実践 ・生成AI(リーディングDXスタイルをふまえ)を活用した授業実践 ・各教科の学習用シラバスの作成及びその活用推進	・研究主任 ・学力向上コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「相手の気持ちを考えた行動や発言ができています」と肯定的に回答する生徒の割合80%以上、保護者80%以上	・日頃の教育活動全般を通じて、生徒の自己肯定感を高めるような声かけを行うと共に特別活動等を通じて互いに認め合う取り組みの実践 ・「AJISAI運動」の推進 ・「すてきボード」など生徒をほめる場の設定 ・「特別の教科道徳」の指導方法工夫改善 ・生徒会を中心とした人権集会の実施	・生徒指導主事 ・生徒会担当 ・学級担任
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「安心して生活できる学校だ」と肯定的に回答する生徒・保護者の割合90%以上 ○「いじめのない学校だ」と肯定的に回答する生徒の割合80%以上、「子どもがいじめや差別をしないことを意識して生活を送っている」と肯定的に回答する保護者80%以上	・学校生活アンケートの毎月実施及び年2回のいじめ調査の実施 ・年2回の教育相談週間とQ-Uテストの実施 ・生徒指導部会、教育相談部会、特別支援教育部会の定例開催による情報共有及び取り組みの改善・充実 ・生徒指導協議会でいじめに関する情報共有およびいじめ防止に関する研修会を1回以上実施 ・SC及びSSWやSSF及び学校関係機関との連携を行い、不登校支援の充実を図る。	・生徒指導主事 ・教育相談担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	○県教育の合言葉「ほめるからはじめる、はじまる」を意識して教育活動を行っている職員100% ○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ◎○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・県教育の合言葉「やってみるから、はじめる、はじまる」の職員への周知徹底及び実践 ・すてきボードや授業の中での「本日の素敵さん」など、ほめる場の設定と賞賛の声かけの工夫 ・職場体験学習や職場見学、地域人材を活用した講演会などの実施	・学年主任 ・人権・同和教育担当
	○より良い友達関係を築くための取り組みの充実	○「学年集会での先生の講話や取り組みはより良い友達関係を築くために役に立つ」と回答する生徒の割合80%以上	・より良い友達関係を築くための教職員の講話の実施 ・グループエンカウンターを活用した集団づくりの実施(校内研修等も含む)	・学年主任 ・人権・同和教育担当
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」生徒90%以上 ○「健康に食事は大切である」と肯定的に回答する生徒の割合90%以上 ○児童生徒の交通事故発生0(ゼロ) ○年1回以上の関係機関と連携した防災学習の実施	・給食だよりの定期発行と内容の充実 ・給食委員会(給食試食会)の実施による保護者への啓発及びPTAと連携した食育の推進 ・衛生面に配慮した給食指導とマナー指導を通して、望ましい食生活習慣の充実を図る。 ・交通安全教室や各種の避難訓練等を通して生徒の安全意識の向上を図る。	・安全指導担当 ・給食・食育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・校務DX推進による業務効率化 ・出退勤管理システム活用による時間外勤務時間の可視化と結果に基づく面談の実施 ・勤務間休憩11時間の「勤務間インターバル」の導入および長期休業期間中の年休取得推進	・教頭
	○「働き方改革」意識向上と実践	○部活動休養日、定時退勤日(週1)、年休取得推進日の設定・徹底	・定時退勤日の設定 ・部活動活動方針の見直し(活動時間及び長期休業期間中の活動自粛期間設定)	・教頭
●特別支援教育の充実	○「特別支援教育」の充実に向けた取組の実践	○個別の教育支援計画、教育計画を活かし、一人ひとりに適切な支援の実施	・特別支援教育部会の定例開催による情報共有(個別のケース会議も含む)及び取り組みの改善・充実 ・個別の支援計画及び指導計画の作成と特別支援教育の研修会の実施	・特別支援教育コーディネーター ・特別支援教育担当
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				
	重点取組			主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	
○生徒会活動の活性化	○生徒会活動を通じた立腰教育の充実および生徒会活動「AJISAI運動」の活性化	○「立腰の声がかかる場面では、正しく立腰している」と肯定的に回答する生徒の割合80%以上 ○AJISAI運動の気持ちのよいあいさつができていますと肯定的に回答する生徒の割合80%以上、保護者80%以上 ●「無言掃除が心の成長につながっている」と回答する生徒の割合80%以上	・朝、授業・掃除・帰りの会・集会前の立腰の実践およびAJISAI運動を通じた生徒会活動の活性化 ・立腰集会の実施 ・あいさつ、返事、後始末の徹底 ・無言掃除への意識向上のための掃除集会や職員研修の実施	・生徒会担当